

# 「聴覚障害者の災害対策アンケート及び聴覚障害者 情報支援者用の災害ベスト、腕章配備事業」 報告書



社会福祉法人宮崎県聴覚障害者協会

平成 25 年 3 月

## 目 次

【発刊のことば】 .....	1
【事業の概要】 .....	2
(1) 事業名	
(2) 事業の目的	
(3) 事業の期間	
【聴覚障害者災害対策アンケート調査の概要】 .....	2～3
(1) アンケート調査の目的	
(2) 調査の内容	
(3) 調査方法	
(4) 調査期間	
(5) 対象者とアンケートの回収	
(6) 集計・分析方法	
【県内聴覚障害者の生活と災害対策の実態～アンケートの分析から～】	
1. 聴覚障害者の居住状況 .....	5
2. 聴覚障害者の世代構成 .....	6
3. 聴覚障害者の家族構成 .....	7～8
4. 急な災害時の情報入手方法 .....	8～10
5. 災害時の避難に対する不安について .....	11～12
6. 聴覚障害者だけでどの程度災害に対応できるか .....	13
7. 防災訓練に対する意識 .....	13～14
8. 聴覚障害者が災害情報や避難情報の支援で必要と考えるもの .....	14～15
9. 聴覚障害者自身の災害に対しての備え .....	15～16
【情報・コミュニケーション環境の変化と聴覚障害者】 .....	17～18
【災害時の聴覚障害者、情報支援者ベスト及び腕章配備事業】 .....	19～20
1. 事業概要	
2. ベスト及び腕章の配置	
【参考資料（アンケート調査項目）】 .....	21～24

## 発刊のことば

社会福祉法人宮崎県聴覚障害者協会  
理事長 安藤 豊喜

この度、宮崎県より「平成24年度災害に備え障がい者・高齢者を支え合うネットワークづくり事業」の委託を受けて、「聴覚障害者の災害対策アンケート及び聴覚障害者、情報支援者用の災害ベスト、腕章事業」を実施しました。

現在の我が国における高齢化社会は、加齢による認知障害、歩行困難な寝たきり障害が急増しています。

平成23年3月11日に発生して東日本大震災における被害者数では、障害者の被害が障害のない人の2倍になっているとの報告がありますが、その数には加齢による障害者の数が多くを占めているようです。とっさの場合、自力で避難行動ができなかった人がほとんどのようです。

このアンケートの対象者は、加齢による障害者も若干いますが、中心は、手話を言語として生活し、手話通訳者、要約筆記者のサポートを受けて自立生活を行っている聴覚障害者であることをまず理解して下さるようお願いいたします。

生来、あるいは幼児期に聴覚障害になった聴覚障害者は、病気、職業、生活などで必要な時に手話通訳者・要約筆記者の派遣を自ら申し込むこととなります。

したがって、災害時の手話通訳、要約筆記者のサポートを待ちの姿勢で期待するのは困難です。また、手話通訳者、要約筆記者が同市町に居住していればその人も被災者であり、手話通訳・要約筆記のサポートを行うのは不可能であり、基本的には、独自の対応が求められるといえましょう。

このような条件を前提として、手話を言語としている聴覚障害者やその家族が「災害に遭遇した場合の課題」をアンケートで探ってみました。

災害時の課題は、①災害発生を正確に知る。②避難の要否、避難先の情報を知る。③避難先でのサポート内容・その他を知る。ことです。

聴覚障害者の生活環境はさまざまです。親との同居、聴覚障害のある夫婦二人だけ、伴侶を亡くし一人生活、近隣の健聴者とお付き合いが可能な人、逆に困難な人などがいます。このような条件や環境をアンケートで集約してみました。一つ一つの設問の内容や、回答を見ていただければ手話を言語としている聴覚障害者への災害時のサポートの在り方や対策の方法が理解できるのではないかと確信します。

手話を言語としている聴覚障害者の生活実態はあまり知られていなく、その不自由さの理解も十分ではありません。この報告書を災害時の対応策や実際の生活面の理解に役立たせていただければ幸いです。

最後になりますか、本事業の実施にあたり、宮崎県、各市町村、ならびに、アンケート実施の訪問調査等の協力をいただいた各地区聴覚障害者協会、各手話サークル、日南市身体障害者福祉協会の皆様と貴重な回答をお寄せいただいた250名の聴覚障害者お一人おひとりに心からお礼を申し上げます。

## 【事業の概要】

### (1) 事業名

聴覚障害者の災害対策アンケート及び聴覚障害者・情報支援者用の災害ベスト、腕章配備事業

### (2) 事業の目的

本事業は、宮崎県から「平成24年度災害に備え障がい者・高齢者を支え合うネットワークづくり事業」の委託を受け実施したものである。県内の聴覚障害者を対象に生活実態の調査を行い、災害時の情報・コミュニケーション、避難支援等のあり方を把握すると共に聴覚障害者、情報支援者（手話通訳者・要約筆記者）が容易に判別できるベスト・腕章を作成し災害時に貸出しを行うものとする。

### (3) 事業の期間

平成25年1月7日～3月31日

## 【聴覚障害者災害対策アンケート調査の概要】

### (1) アンケート調査の目的

県内の聴覚障害者が災害に遭遇する場合を想定して、災害時の情報・コミュニケーション対策の資料とするために実際の生活現状を把握するためにアンケートを実施した。その上で各聴覚障害者の地域的な支えの見通し等を推定するとともに、日頃の備えや地域での行動などの理解を推進するものとする。

### (2) 調査の内容

1. 聴覚障害者の居住状況
2. 聴覚障害者の世代構成
3. 聴覚障害者の家族構成
4. 急な災害時の情報入手方法
5. 災害時の避難に対する不安について
6. 聴覚障害者だけでどの程度災害に対応できるか
7. 防災訓練に対する意識
8. 聴覚障害者が災害情報や避難情報の支援で必要と考えるもの
9. 聴覚障害者自身の災害に対しての備え

以上について、全17項目にわたるアンケート調査項目を設定した。

### (3) 調査方法

- ① 県協会会員については、会員名簿を元に、延岡・日向・宮崎・都城・西諸各協会を中心として手話サークル関係者等の協力を得て以下の方法でアンケート調査を行った。
  - 1) 各地区協会主催のアンケート説明会
  - 2) 対象者への郵送
  - 3) 対象者への自宅訪問
  - 4) 文章の理解が困難な対象者に対して、家族への電話による聞き取り調査

以上の方法で記入が済んだアンケート票を、上記の5協会に取りまとめ、県協会事務局へ直接持参、または郵送してもらう方法で回収を行った。

- ② また、手話通訳派遣事業への利用登録者に対しても、その名簿を元に直接郵送し、記入が済んだアンケート票を返信用封筒によって当協会事務局に郵送してもらう方法で回収を行った。
- ③ その他、当協会の把握していない聴覚障害者に対しても、各市町村の協力を得て、市町村窓口に来所された聴覚障害者に対して、アンケート記入をお願いし、記入が済んだ調査票を各市町村から県協会事務局に郵送してもらう方法で回収を行った。

### (4) 調査期間

アンケート票は、平成25年1月13日から各地区協会、手話通訳派遣事業利用者、各市町村に発送を開始し、平成25年2月28日までの回収期間とした。ただし、回収期間を過ぎた場合でも、集計作業に支障がないかぎりにおいて有効回答として処理を行った。

### (5) 対象者とアンケートの回収

調査の対象は、当協会では把握できる聴覚障害者及び県内各市町村の公的支援を利用されている聴覚障害者を対象とした。名簿を基に当協会では把握できた聴覚障害者は会員・非会員合わせて301名であった。

それとは別に、会員の多い延岡市・日向市・宮崎市・都城市を除く各市町村にアンケート票を郵送し、調査期間内に窓口に来所された方を対象に、無理のない範囲での協力をお願いした。市町村に郵送したアンケート票は合計50票である。

また、上記以外で、県立聴覚障害者センターに来所された聴覚障害者の方にも協力をお願いした。

以上の結果、今回のアンケート対象数は366名となった。

うち回答数は250人で、回収率は68%であった。

### (6) 集計・分析方法

「調査の内容」の項目に沿って、県協会において集計・分析を行い、実態を整理した。

# 県内聴覚障害者の生活と災害対策の実態

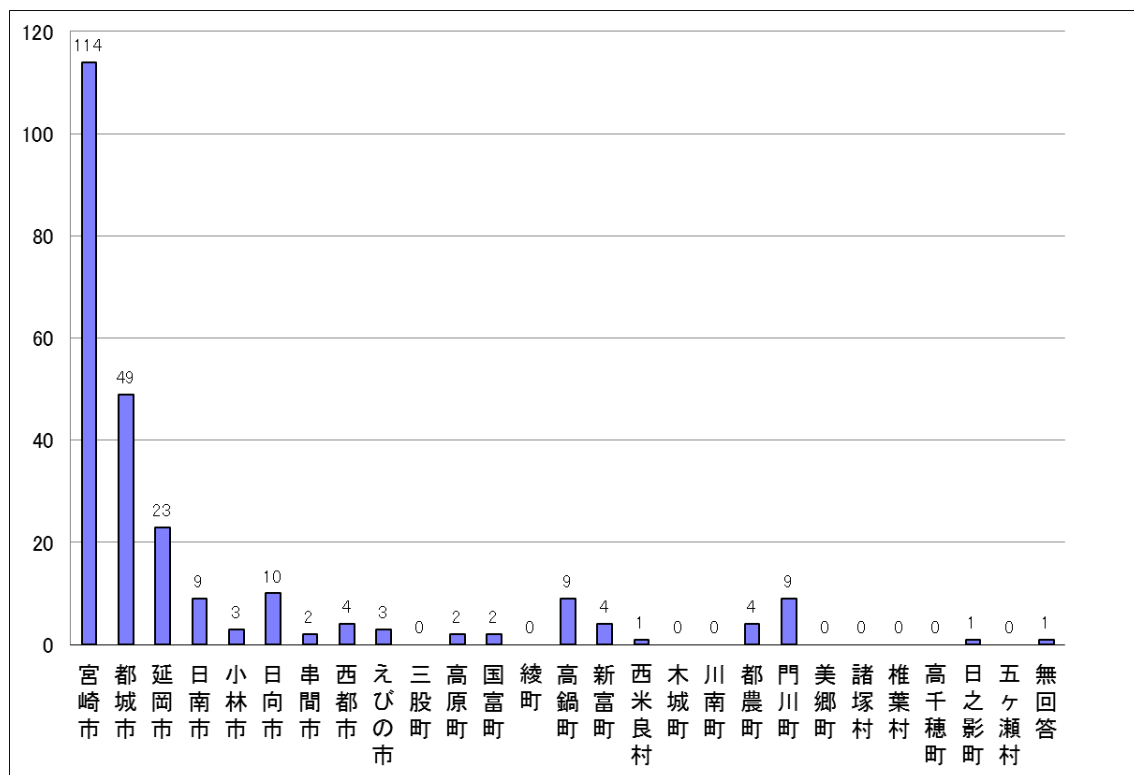
～アンケートの分析から～

## 1. 聴覚障害者の居住状況

聴覚障害者協会支部がある市・町に居住している聴覚障害者が大多数だが、手話を言語としている県内の聴覚障害者〔約 1500 人〕のうち 26 市町村のうち 16 市町村から 250 名の回答を得た。

今回のアンケート調査は県協会会員や県立聴覚障害者センター利用者を中心に行ったため、全ての聴覚障害者を対象にはしていないが、難聴者や高齢者も合わせれば情報・コミュニケーション保障へのニーズは非常に高いと考えられる。

図1 県内各市町村のアンケート回答者分布



## 2. 聴覚障害者の世代構成

高齢聴覚障害者に対する支援対策が急務である。

アンケート回答者の中では60代が多く全体の32.4%を占めている。

高齢聴覚障害者は、聴覚障害に加え、加齢のために身辺移動が自由にならず一人での避難や歩行が困難であるという課題を抱えている。

今後の支援体制のあり方を早急に整備していく必要がある。

図2 年齢構成グラフ

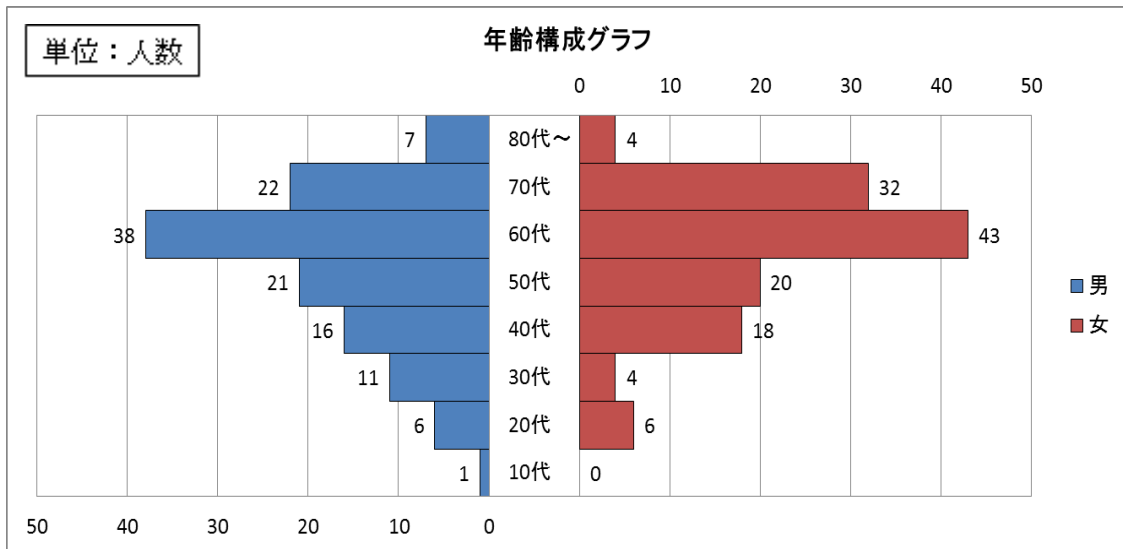


図3 世代別人数及び全体に占める割合

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	合計
男	1 (100%)	6 (50%)	11 (73.3%)	16 (47.1%)	21 (51.2%)	38 (46.9%)	22 (40.7%)	7 (63.6%)	122 (48.8%)
女	0	6 (50%)	4 (26.7%)	18 (52.9%)	20 (48.8%)	43 (53.1%)	32 (59.3%)	4 (36.4%)	128 (51.2%)
合計	1	12	15	34	41	81	54	11	250



### 3. 聴覚障害者の家族構成

特に聴覚障害者の夫婦世帯が多いが、他にも様々な家族構成がうかがえる。

聴覚障害者だけの世帯（一人暮らし、配偶者も聴覚障害者である場合）や、家族と生活していてもその家族が高齢者である場合など、災害ニーズはさまざまであり、後述の説明のように個々の事情に合わせた対応が望まれている。

#### 【同居している家族（その他）】

- ・ 祖父母
- ・ 孫
- ・ 息子（娘）夫婦
- ・ 施設、グループホームに入所している

図4 一人暮らしか、家族と同居しているか

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	合計
一人で生活している	0	2 (16.7%)	3 (20%)	7 (20.6%)	3 (7.5%)	12 (15%)	14 (26.4%)	2 (18.2%)	44 (17.8%)
家族と一緒に生活している	1 (100%)	10 (83.3%)	12 (80%)	27 (79.4%)	37 (92.5%)	68 (85%)	39 (73.6%)	9 (81.8%)	203 (82.2%)
合計	1	12	15	34	40	80	53	11	247

図5 同居している家族構成

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	合計
両親	1 (33.3%)	4 (33.3%)	8 (50%)	9 (22%)	4 (7.5%)	5 (5.7%)	0	0	31 (11.5%)
配偶者 (夫婦)	0	3 (25%)	3 (18.8%)	15 (36.6%)	28 (52.8%)	57 (64.8%)	31 (67.4%)	6 (60%)	143 (53.2%)
兄弟姉妹	1 (33.3%)	3 (25%)	0	2 (4.9%)	1 (1.9%)	4 (4.5%)	5 (10.9%)	0	16 (5.9%)
子ども	0	2 (16.7%)	5 (31.3%)	14 (34.1%)	20 (37.7%)	19 (21.6%)	9 (19.6%)	4 (40%)	73 (27.1%)
その他	1 (33.3%)	0	0	1 (2.4%)	0	3 (3.4%)	1 (2.2%)	0	6 (2.2%)
合計	3	12	16	41	53	88	46	10	269

図6 家族に自分以外聴覚障害者がいるかどうか

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	合計
自分以外健聴者	0	2 (25%)	8 (66.7%)	16 (61.5%)	13 (34.2%)	21 (30.9%)	9 (23.7%)	4 (57.1%)	73 (36.9%)
聴覚障害者がいる	1 (100%)	6 (75%)	4 (33.3%)	10 (38.5%)	25 (65.8%)	47 (69.1%)	29 (76.3%)	3 (42.9%)	125 (63.1%)
合計	1	8	12	26	38	68	38	7	198

図7 自分以外の聴覚障害者との関係

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	総計
両親	0	1 (14.3%)	1 (25%)	0	0	2 (4.4%)	0	0	4 (3.1%)
配偶者 (夫婦)	0	3 (42.9%)	3 (75%)	9 (81.8%)	23 (85.2%)	37 (82.2%)	26 (86.7%)	3 (100%)	104 (81.3%)
兄弟姉妹	1 (100%)	2 (28.6%)	0	0	0	1 (2.2%)	2 (6.7%)	0	6 (4.7%)
子ども	0	1 (14.3%)	0	2 (18.2%)	4 (14.8%)	4 (8.9%)	2 (6.7%)	0	13 (10.2%)
その他	0	0	0	0	0	1 (2.2%)	0	0	1 (0.8%)
合計	1	7	4	11	27	45	30	3	128

## 4. 急な災害時の情報入手方法

高齢になるほど情報入手方法がない人の割合が高くなっていくが、若い世代であっても情報入手が十分でないと考える人もいる。

テレビの緊急ニュースや携帯電話の緊急メールから情報を入手すると回答した人が多かった。健聴者の家族と同居している場合は、家族から情報を教えてもらうことができる。一方、高齢になるほど携帯電話ではなくFAXから情報を入手すると回答した人の割合が増えている。世代・個人によって適切な情報入手方法は異なっている。

また、何が起きたのかその情報を知る方法がない、助けを願うことができる人が近くにいないと回答した人の割合が世代を通して高かった。若い世代から「その他」として「テレビだけでは情報が不十分である」との回答もあり、緊急放送に手話通訳を設置することも含めた情報提供手段の充実や隣近所との人間関係も含めた支援体制が重要である。

### 【災害時に内容を知る方法（その他）】

- ・ ツイッター
- ・ 職場の人から教えてもらう
- ・ 防災ラジオ

【災害時に内容を知る方法がない理由（その他）】

- ・ テレビだけでは情報として不十分
- ・ 携帯はあるが文章の理解ができない

図8 急な災害時にその内容を知る方法があるか

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	合計
はい	1 (100%)	9 (75%)	13 (86.7%)	31 (91.2%)	35 (85.4%)	58 (71.6%)	43 (79.6%)	6 (60%)	197 (79.1%)
いいえ	0	3 (25%)	2 (13.3%)	3 (8.8%)	6 (14.6%)	23 (28.4%)	11 (20.4%)	4 (40%)	52 (20.9%)
合計	1	12	15	34	41	81	54	10	249

図8-1 一人暮らしと家族暮らしを比較

選択項目	一人で生活	家族と生活
はい	30 (68.2%)	164 (81.2%)
いいえ	14 (31.8%)	38 (18.8%)
合計	44	202

図9 「はい」の場合はその方法について

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	合計
家族から教えてもらう	1 (33.3%)	5 (21.7%)	6 (19.4%)	19 (26.8%)	12 (18.8%)	30 (22.7%)	15 (16.7%)	4 (36.4%)	92 (21.5%)
近くの健聴者から教えてもらう	0	4 (17.4%)	5 (16.1%)	3 (4.2%)	7 (10.9%)	13 (9.8%)	14 (15.6%)	1 (9.1%)	48 (11.2%)
テレビの緊急ニュース	1 (33.3%)	5 (21.7%)	9 (29%)	15 (21.1%)	19 (29.7%)	41 (31.1%)	29 (32.2%)	3 (27.3%)	123 (28.8%)
携帯電話文字メールによる連絡	1 (33.3%)	8 (34.8%)	8 (25.8%)	24 (33.8%)	19 (29.7%)	28 (21.2%)	12 (13.3%)	0	100 (23.4%)
近くの手話通訳者・要約筆記者から教えてもらう	0	0	2 (6.5%)	2 (2.8%)	1 (1.6%)	6 (4.5%)	4 (4.4%)	0	15 (3.5%)
FAXによる連絡	0	0	1 (3.2%)	6 (8.5%)	5 (7.8%)	14 (10.6%)	15 (16.7%)	3 (27.3%)	44 (10.3%)
その他	0	1 (4.3%)	0	2 (2.8%)	1 (1.6%)	0	1 (1.1%)	0	5 (1.2%)
合計	3	23	31	71	64	132	90	11	427

図9-1 一人暮らしと家族暮らしを比較

選択項目	一人で生活	家族と生活
家族から教えてもらう	6 (10.5%)	86 (23.5%)
近くの健聴者から教えてもらう	12 (21.1%)	36 (9.8%)
テレビの緊急ニュース	17 (29.8%)	105 (28.7%)
携帯電話文字メールによる連絡	10 (17.5%)	88 (24%)
近くの手話通訳者・要約筆記者から教えてもらう	4 (7%)	10 (2.7%)
FAXによる連絡	7 (12.3%)	37 (10.1%)
その他	1 (1.8%)	4 (1.1%)
合計	57	366

図10 「いいえ」の場合はその理由について

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	合計
何が起きているのか情報を知る方法がない	0	1 (20%)	2 (66.7%)	2 (28.6%)	4 (44.4%)	17 (45.9%)	9 (37.5%)	4 (40%)	39 (41.1%)
テレビ報道の内容が十分に理解できない	0	1 (20%)	1 (33.3%)	2 (28.6%)	1 (11.1%)	6 (16.2%)	6 (25%)	3 (30%)	20 (21.1%)
助けをお願いできる人が近くにいない	0	1 (20%)	0	3 (42.9%)	3 (33.3%)	8 (21.6%)	5 (20.8%)	1 (10%)	21 (22.1%)
携帯メール、FAXを使っていない	0	0	0	0	0	4 (10.8%)	4 (16.7%)	2 (20%)	10 (10.5%)
その他	0	2 (40%)	0	0	1 (11.1%)	2 (5.4%)	0	0	5 (5.3%)
合計	0	5	3	7	9	37	24	10	95

図10-1 一人暮らしと家族暮らしを比較

選択項目	一人で生活	家族と生活
何が起きているのか情報を知る方法がない	13 (36.1%)	26 (44.1%)
テレビ報道の内容が十分に理解できない	8 (22.2%)	12 (20.3%)
助けをお願いできる人が近くにいない	7 (19.4%)	14 (23.7%)
携帯メール、FAXを使っていない	6 (16.7%)	4 (6.8%)
その他	2 (5.6%)	3 (5.1%)
合計	36	59

## 5. 災害時の避難に対する不安について

情報が不十分であること、高齢であることが主な不安要素である。

心配していない人は家族の助けが期待できる、テレビや携帯メールなどを利用して自分で避難情報を理解できることなどを理由に上げている。一方で避難情報の理解だけではなく、一人暮らしですぐに避難することが難しい場合や高齢などで歩行困難である場合も避難に対する大きな不安要素となっている。

避難所の場所が分からないと回答した人も多く、聴覚障害者に対しての情報提供や、避難訓練などの情報保障などが十分になされていないと考えられる。

また、家族が障害者であり早く歩けない、万が一の時には避難をあきらめているという切実な回答もあり、障害者個人や家庭の状況に応じた対策が求められている。

### 【避難を心配していない理由（その他）】

- ・近くに学校や公民館などの避難所がある

### 【避難に不安がある理由（その他）】

- ・家族が高齢者である
- ・ペットが心配
- ・寝ている時は対応できない
- ・子供と連絡が取れないと不安
- ・災害時に、障害者への対応が後回しにされないか心配

図11 災害時の避難に対して不安があるか

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	総計
心配していない	1 (100%)	4 (33.3%)	1 (6.7%)	7 (21.2%)	5 (12.2%)	17 (21.3%)	7 (13.2%)	3 (27.3%)	45 (18.2%)
どちらかといえば心配していない	0	2 (16.7%)	3 (20%)	7 (21.2%)	7 (17.1%)	16 (20%)	12 (22.6%)	1 (9.1%)	49 (19.8%)
どちらかといえば不安がある	0	3 (25%)	9 (60%)	7 (21.2%)	10 (24.4%)	23 (28.8%)	11 (20.8%)	4 (36.4%)	67 (27.1%)
不安がある	0	3 (25%)	2 (13.3%)	12 (36.4%)	19 (46.3%)	24 (30%)	23 (43.4%)	3 (27.3%)	86 (34.8%)
合計	1	12	15	33	41	80	53	11	247

図 11-1 一人暮らしと家族暮らしを比較

選択項目	一人で生活	家族と生活
心配していない	9 (20.5%)	36 (18%)
どちらかといえば心配していない	10 (22.7%)	37 (18.5%)
どちらかといえば不安がある	13 (29.5%)	54 (27%)
不安がある	12 (27.3%)	73 (36.5%)
合計	44	203

図12 避難を心配していない理由

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	合計
家族の助けがある	1 (50%)	5 (41.7%)	1 (11.1%)	5 (20%)	6 (26.1%)	24 (38.7%)	10 (37%)	4 (44.4%)	56 (32.9%)
近くの健聴者の助けがある	0	2 (16.7%)	2 (22.2%)	4 (16%)	5 (21.7%)	10 (16.1%)	5 (18.5%)	1 (11.1%)	30 (17.6%)
テレビ・携帯電話 文字メールで情報 を得て避難が できる	1 (50%)	3 (25%)	4 (44.4%)	10 (40%)	7 (30.4%)	15 (24.2%)	7 (25.9%)	2 (22.2%)	49 (28.8%)
自分で災害情報 を得て、避難所 の場所を知り、 安全に行動が できる	0	2 (16.7%)	1 (11.1%)	6 (24%)	4 (17.4%)	11 (17.7%)	4 (14.8%)	1 (11.1%)	29 (17.1%)
その他	0	0	1 (11.1%)	0	1 (4.3%)	2 (3.2%)	1 (3.7%)	1 (11.1%)	6 (3.5%)
合計	2	12	9	25	23	62	27	9	170

図13 避難に不安がある理由

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	合計
災害情報の理解 がむずかしい	0	1 (14.3%)	2 (14.3%)	5 (17.2%)	15 (31.3%)	25 (37.3%)	13 (22.4%)	3 (25%)	64 (27.2%)
一人暮らしであり、 すぐに避難する 事がむずかしい	0	0	0	3 (10.3%)	2 (4.2%)	4 (6%)	10 (17.2%)	2 (16.7%)	21 (8.9%)
避難所の場所が 分からない	0	3 (42.9%)	7 (50%)	8 (27.6%)	15 (31.3%)	17 (25.4%)	9 (15.5%)	0	59 (25.1%)
助けてくれる健聴 者が近くにいない	0	2 (28.6%)	4 (28.6%)	6 (20.7%)	9 (18.8%)	8 (11.9%)	7 (12.1%)	2 (16.7%)	38 (16.2%)
障害・高齢などで 歩くことがむずか しい	0	0	0	2 (6.9%)	4 (8.3%)	11 (16.4%)	16 (27.6%)	5 (41.7%)	38 (16.3%)
その他	0	1 (14.3%)	1 (7.1%)	5 (17.2%)	3 (6.3%)	2 (3%)	3 (5.2%)	0	15 (6.4%)
合計	0	7	14	29	48	67	58	12	235

## 6. 聴覚障害者だけでどの程度災害に対応できるか

家族や友人が近くにいる、自分で筆談や身振りでコミュニケーションできる場合は災害情報の入手、避難などがある程度できる。

災害時のような緊急時には、自己選択、自己判断、自己決定が非常に重要になるが、十分な情報がない場合はそれが困難になる。その時に助けになるような人がいるか、または自分で身振り・筆談などを用いて助けを求めることができる場合はいいが、そうでない人に対する支援が非常に重要となる。

図14 何かあった時に助けになる友人または家族がいるか

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	合計
はい	1 (100%)	9 (75%)	10 (66.7%)	23 (71.9%)	20 (48.8%)	50 (66.7%)	32 (61.5%)	8 (72.7%)	154 (64.2%)
いいえ	0	3 (25%)	5 (33.3%)	9 (28.1%)	21 (51.2%)	25 (33.3%)	20 (38.5%)	3 (27.3%)	86 (35.8%)
合計	1	12	15	32	41	75	52	11	240

図15 身振り、筆談などを用いて自分の力で助けを求めることができるか

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	合計
はい	1 (100%)	10 (83.3%)	14 (93.3%)	24 (77.4%)	26 (65%)	53 (70.7%)	38 (74.5%)	5 (50%)	172 (72.9%)
いいえ	0	2 (16.7%)	1 (6.7%)	7 (22.6%)	14 (35%)	22 (29.3%)	13 (25.5%)	5 (50%)	64 (27.1%)
合計	1	12	15	31	40	75	51	10	236

## 7. 防災訓練に対する意識

防災訓練への参加率は低いが、その理由についてより分析が必要である。

参加していないと回答した人が 73.7%を占めた。「地区では防災訓練をやっていない」と回答した人もおり、住んでいる地域での取り組みの違いや仕事の都合、本人の関心の低さなどの要因が考えられるが、また防災訓練に手話通訳などの情報保障があるのかも影響していると考えられる。

避難所の場所を知ることや、隣近所との交流を深め、災害時の助けとなる人を知ることにもつながることから、防災訓練への情報保障支援は非常に重要になると考えられる。

図16 住んでいる地域の防災訓練に参加しているか

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	合計
いつも参加している	0	0	0	4 (12.5%)	1 (2.4%)	3 (3.9%)	3 (5.7%)	1 (9.1%)	12 (4.9%)
時々参加している	0	0	2 (13.3%)	3 (9.4%)	2 (4.9%)	4 (5.2%)	4 (7.5%)	0	15 (6.2%)
たまに参加している	0	2 (16.7%)	6 (40%)	2 (6.3%)	1 (2.4%)	19 (24.7%)	5 (9.4%)	2 (18.2%)	37 (15.2%)
参加していない	1 (100%)	10 (83.3%)	7 (46.7%)	23 (71.9%)	37 (90.2%)	51 (66.2%)	41 (77.4%)	8 (72.7%)	179 (73.7%)
合計	1	12	15	32	41	77	53	11	243

## 8. 聴覚障害者が災害情報や避難情報の支援で必要と考えるもの

聴覚障害者が理解できる迅速・正確な情報支援が特に求められている。

市町村・県立聴覚障害者センターによる迅速・正確な情報の伝達。また視覚的に分かる掲示板や広報車への掲示、テレビの緊急ニュースへの字幕導入や、近所の人を手話を覚えての支援が求められている。



図17 災害情報や避難情報の支援に何が必要か

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	合計
近くの人に手話を覚えて支援してもらう	1 (33.3%)	1 (3.4%)	6 (13.6%)	11 (14.3%)	18 (17.8%)	29 (17.5%)	24 (20.9%)	3 (15%)	93 (16.7%)
災害情報弱者として行政機関に登録制度を作る	0	3 (10.3%)	5 (11.4%)	9 (11.7%)	11 (10.9%)	11 (6.6%)	13 (11.3%)	2 (10%)	55 (9.9%)
市町村・県立聴覚障害者センターによる迅速・正確な情報の伝達(FAX、携帯電話文字メール、自宅訪問など)	1 (33.3%)	9 (31%)	9 (20.5%)	23 (29.9%)	33 (32.7%)	48 (28.9%)	30 (26.1%)	5 (25%)	159 (28.5%)
災害時には、テレビのローカルニュースに手話通訳を配置する	0	4 (13.8%)	9 (20.5%)	16 (20.8%)	16 (15.8%)	38 (22.9%)	27 (23.5%)	3 (15%)	114 (20.4%)
県の防災マニュアルのうち個人で対応できないものについては、公的配置等を行う	0	4 (13.8%)	5 (11.4%)	6 (7.8%)	5 (5%)	11 (6.6%)	6 (5.2%)	1 (5%)	38 (6.8%)
避難指示が視覚的に理解できる掲示板の設置、広報車への掲示等を行う	1 (33.3%)	7 (24.1%)	10 (22.7%)	10 (13%)	17 (16.8%)	28 (16.9%)	15 (13%)	5 (25%)	93 (16.7%)
その他	0	1 (3.4%)	0	2 (2.6%)	1 (1%)	1 (0.6%)	0	1 (5%)	6 (1.1%)
合計	3	29	44	77	101	166	115	20	558

## 9. 聴覚障害者自身の災害に対する備え

貴重品をすぐに持ち出せるようにすることが一番多く、非常用持出袋の準備や家族の間で相談しておくという回答が次いで多かった。

防災情報メールへの加入をあげた人も多かったが、80代以上の高齢者になると利用者が少なくなった。近所の人に教えてもらうようお願いするという回答もやや少なく、近所の人と普段からのコミュニケーションができていない人との間で差があると考えられる。

図18 急いで避難するために準備できるもの

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	合計
防災情報メールサービス(携帯メール)への加入	0	8 (20%)	8 (17.4%)	24 (27%)	20 (20.4%)	33 (18.6%)	17 (14.3%)	2 (9.5%)	112 (18.8%)
通帳、健康保険証、障害者手帳などの貴重品をすぐに持ち出せるようにする	1 (25%)	12 (30%)	12 (26.1%)	27 (30.3%)	31 (31.6%)	57 (32.2%)	37 (31.1%)	8 (38.1%)	186 (31.2%)
非常用持出袋(食料、水、生活用品、懐中電灯、医薬品など)の準備	1 (25%)	8 (20%)	7 (15.2%)	17 (19.1%)	19 (19.4%)	31 (17.5%)	29 (24.4%)	3 (14.3%)	116 (19.4%)
家族で話し合っ て避難場所、方 法などを前もっ て決めておく	1 (25%)	8 (20%)	12 (26.1%)	13 (14.6%)	16 (16.3%)	31 (17.5%)	19 (16%)	5 (23.8%)	105 (17.6%)
避難放送があっ た時は教えても らえるように近所 の人をお願いし ておく	1 (25%)	4 (10%)	7 (15.2%)	7 (7.9%)	11 (11.2%)	24 (13.6%)	13 (10.9%)	3 (14.3%)	71 (11.9%)
その他	0	0	0	1 (1.1%)	1 (1%)	1 (0.6%)	4 (3.4%)	0	7 (1.2%)
合計	4	40	46	89	98	177	119	21	597

## 【情報・コミュニケーション環境の変化と聴覚障害者】

アンケートの目的は、事業概要にありますように、手話を言語としている聴覚障害者を中心とした災害に関する対応の調査です。調査による回答は250人と多くはないですが、手話を言語としている県内の聴覚障害者〔約 1500 人〕に共通するものであると確信するのです。災害時に重要なものは、災害発生の情報、また、災害の規模、避難の要否、方法などを知ることです。聴覚、言語に障害のある聴覚障害者は、「情報・コミュニケーション」のバリアに囲まれています。以前と違って、手話の市民的な普及、FAX、携帯電話文字メール、インターネット、字幕導入のテレビ番組の普及など、多様な情報・コミュニケーション環境が整備されつつあります。このような背景を理解しながら聴覚障害者の災害に対する対応の在り方を考えてみる必要があります。

### 1. 生活環境・〔一人暮らし・家族同居〕

一人暮らし、聴覚障害者同士の夫婦・親、兄弟との同居など、さまざまな家族構成がありますが、今回の調査で判明したことは、親・兄弟など健聴者との同居でも災害に対する不安が強いことです。家族の中での情報・コミュニケーションの困難さが万一の災害に対する家族の支援に対しても不安を感じているようです。

家族との同居は健聴者の支援があるので、一人暮らしや聴覚障害者同士の夫婦より安心との見方を見直す必要があるようです。対応策としては、聴覚障害者と同居する家族の手話取得や日ごろからのコミュニケーションに留意することでしょう。

### 2. 災害時の情報入手

入手手段は家族、近所の人、テレビ、携帯電話文字メール、FAX、近くの通訳者など多様な選択が用いられています。以前のような手話通訳だけにしか頼れなかった時代とは違った変化がある反面、情報を知る手段がない、テレビ報道の内容が理解できない。近所に付き合いのある人がいない、携帯電話メール・FAXを使えないなど、特別な対応を必要とする人もいます。特に一人暮らしや高齢者に対する特別な配慮が必要です。

### 3. 避難対応

家族、近所の人、テレビ、携帯電話文字メール利用、自分で情報を得て避難する人がいる反面、災害情報の理解が困難、一人暮らしで避難が難しい、避難場所が分からない、支援する人が近くにいない、障害や高齢で歩くのが難しいと他力に依存しなければならないという人が多くいます。

また、手話の普及や障害者の理解が高まっており、災害時に自分自身が近くの人に身振り、筆談などで支援を求めることができるか？との問いに対しても、身振り、筆談等による支援依頼できる人が高い割合で増えている傾向があります。

しかし、高齢者となると困難な人が多いので、情報入手と合わせての検討が課題です。

### 4. その他

年代により違いはありますが、視覚的情報手段や人的な支援の二つが求められていることが分かりました。

また、情報を待つだけでなく自ら周りの健聴者に対しコミュニケーションを図る努力と工夫を行っている聴覚障害者がいることもわかりました。

防災訓練に対する意識では、ほとんど参加したことがないという結果が出ていますが、これには、聴覚障害者への積極的な呼びかけや手話通訳設置の配慮がなされないことにも原因がありますので、防災訓練実施機関の努力をお願いしたいと思います。

また、聴覚障害者の要望としては、公的機関や県立聴覚障害者センターの災害時の支援体制の充実と合わせて、テレビではローカルニュースに手話通訳や字幕を導入することが求められています。

災害遭遇にあたって停電がなければ、テレビが最も重要な情報源となりますが、宮崎県のローカルニュースには手話・字幕の挿入がほとんどありませんので検討をお願いします。手話を言語として生活している聴覚障害者の方々が安心した地域生活が送られるために、本人、公的機関、地域住民それぞれが、この「聴覚障害者の災害対策アンケート」の結果をもとに災害時の対応策や実際の生活面に活かしていただけることを願っています。

また、聴覚障害者、情報支援者用の災害ベストと腕章を作成し、県立聴覚障害者センターに保管し、災害時に視覚的かつ人的支援として活用します。このように取組みが県内各市町村で広がる契機になれば幸いです。

## 【災害時の聴覚障害者、情報支援者ベスト及び腕章配備】

### 1. 事業概要

- ① ベストと腕章を県立聴覚障害者センターに保管し、災害時に下記の場面において活用する。
- ② 災害時に避難所の聴覚障害者に自ら聴覚障害であることを表示した「ベスト」または「腕章」を配布し様々な情報伝達の際に活用する。
- ③ 「手話通訳者」及び「要約筆記者」の「ベスト」または「腕章」を情報支援者が付けて、災害時に避難所などにいる聴覚障害者から見分けがつくようにする。

### 2. ベスト及び腕章の配置

種別	対象	色	枚数	配置場所
ベスト	聴覚障がい者	蛍光グリーン	30枚	県立聴覚障害者センター
	手話通訳者	蛍光オレンジ	30枚	
	要約筆記者	蛍光オレンジ	30枚	
腕章	聴覚障がい者	蛍光グリーン	30枚	
	手話通訳者	蛍光イエロー	30枚	
	要約筆記者	蛍光イエロー	30枚	

(聴覚障がい者用ベスト 前側)



(聴覚障がい者用ベスト 後ろ側)



(聴覚障がい者用腕章)



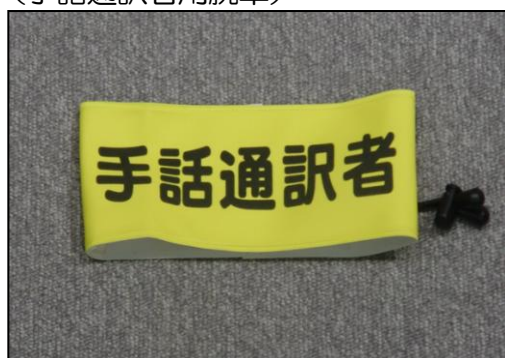
(手話通訳者用ベスト 前側 )



(手話通訳者用ベスト 後ろ側)



(手話通訳者用腕章)



(要約筆記者用ベスト 前側)



(要約筆記者用ベスト 後ろ側)



(要約筆記者用腕章)



## アンケート調査項目

- (1) 質問の答えにあてはまるものについて、解答欄の番号に○をつけてください。
- (2) ( ) には答えを直接記入してください。
- (3) 質問で分からない所がありましたら、当協会までお問い合わせください。

### ● あなたの事について

問1. あなたの住んでいる市町村名をお答えください。

( ) 市 ・ 町 ・ 村

問2. あなたの年齢について、この中からあてはまるものをお答えください。

- |    |     |    |       |
|----|-----|----|-------|
| 1. | 10代 | 5. | 50代   |
| 2. | 20代 | 6. | 60代   |
| 3. | 30代 | 7. | 70代   |
| 4. | 40代 | 8. | 80代以上 |

問3. あなたの性別について、この中から一つお答えください。

1. 男
2. 女

問4. あなたの家族構成について、この中から一つお答えください。

1. 一人で生活している → 問7へ
2. 家族と一緒に生活している → 問5へ

問5. 家族の内容について、この中からあてはまるものをお答えください。

1. 両親
  2. 配偶者（夫婦）
  3. 兄弟姉妹
  4. 子ども
  5. その他（ ）
- 家族全員で（ ）名

問6. あなたの他に、家族に聴覚障害者がいますか？この中から一つお答えください。

1. 自分以外健聴者
2. 聴覚障害者がいる → 下記にあてはまるものに○をつけてください。  
( 両親 ・ 配偶者(夫婦) ・ 兄弟姉妹 ・ 子ども ・ その他 )

● 地震・津波・台風・豪雨等の災害における情報コミュニケーション・避難について

問7. あなたは、急な災害が起きた時に、その内容を知る方法がありますか。この中から一つお答えください。

1. はい → 問8へ
2. いいえ → 問9へ

問8. はいと答えた方にお聞きします。それはどのような方法ですか。この中からいくつでもあげてください。回答後は問10にお進みください。

1. 家族から教えてもらう
2. 近くの健聴者から教えてもらう
3. テレビの緊急ニュース
4. 携帯電話文字メールによる連絡
5. 近くの手話通訳者・要約筆記者から教えてもらう
6. FAXによる連絡
7. その他 ( )

問9. いいえと答えた方にお聞きします。それはなぜですか。この中からいくつでもあげてください。

1. 何が起きているのか情報を知る方法がない
2. テレビ報道の内容が十分に理解できない
3. 助けをお願いできる人が近くにいない
4. 携帯メール、FAXを使っていない
5. その他 ( )



問10. あなたは、災害が起きた時に避難する事に対して不安はありますか。この中から一つお答えください。

- |    |                 |        |
|----|-----------------|--------|
| 1. | 心配していない         | } 問11へ |
| 2. | どちらかといえば心配していない |        |
| 3. | どちらかといえば不安がある   | } 問12へ |
| 4. | 不安がある           |        |

問11. 心配していないと答えた方にお聞きします。それはなぜですか。この中からいくつでもあげてください。回答後は問13にお進みください。

- |    |                                |
|----|--------------------------------|
| 1. | 家族の助けがある                       |
| 2. | 近くの健聴者の助けが得られる                 |
| 3. | テレビ・携帯電話文字メールで情報を得て避難ができる      |
| 4. | 自分で災害情報を得て、避難所の場所を知り、安全に行動ができる |
| 5. | その他 ( )                        |

問12. 不安があると答えた方にお聞きします。それはなぜですか。この中からいくつでもあげてください。

- |    |                         |
|----|-------------------------|
| 1. | 災害情報の理解がむずかしい           |
| 2. | 一人暮らしであり、すぐに避難する事がむずかしい |
| 3. | 避難所の場所が分からない            |
| 4. | 助けてくれる健聴者が近くにいない        |
| 5. | 障害・高齢などで歩く事がむずかしい       |
| 6. | その他 ( )                 |

問13. あなたの近くには、日ごろ交流があり何かがあった時に助けになる健聴者、もしくは身内の方がいますか。この中から一つお答えください。

- |    |     |
|----|-----|
| 1. | はい  |
| 2. | いいえ |

問14. あなたは災害時、困ったときに自分だけで近くの健聴者に身振り、筆談などで支援を求めることができますか。この中から一つお答えください。

- |    |     |
|----|-----|
| 1. | はい  |
| 2. | いいえ |

問15. あなたは地域の防災訓練に参加していますか。この中から一つお答えください。

1. いつも参加している
2. 時々参加している
3. たまに参加している
4. 参加していない

問16. あなたは災害情報や避難情報の支援のために何か必要だと思いませんか。この中からいくつでもあげてください。

1. 近くの人に手話を覚えて支援してもらう
2. 災害情報弱者として行政機関に登録制度を作る
3. 市町村・県立聴覚障害者センターによる迅速・正確な情報の伝達  
(FAX、携帯電話文字メール、自宅訪問など)
4. 災害時には、テレビのローカルニュースに手話通訳を配置する
5. 県の防災マニュアルのうち個人で対応できないものについては、公的配置等を行う
6. 避難指示が視覚的に理解できる掲示板の設置、広報車への掲示等を行う
7. その他 ( )

問17. 災害に備えて、急いで避難するためには下記のことを準備する必要があります。この中であなたが準備できるものはどんなものがありますか。この中からいくつでもあげてください。

1. 防災情報メールサービス（携帯メール）への加入
2. 通帳、健康保険証、障害者手帳などの貴重品をすぐに持ち出せるようにする
3. 非常用持出袋（食料、水、生活用品、懐中電灯、医薬品など）の準備
4. 家族で話し合って避難場所、方法などを前もって決めておく
5. 避難放送があった時は教えてもらえるように近くの人をお願いしておく
6. その他 ( )

質問はこれで終わりです。ご協力ありがとうございました。

「聴覚障害者の災害対策アンケート及び聴覚障害者、情報支援者用の  
災害ベスト、腕章配備事業」報告書

---

発 行：社会福祉法人宮崎県聴覚障害者協会  
〒880-0051 宮崎市江平西2丁目1番20号  
県立聴覚障害者センター内  
TEL 0985-38-8733 FAX 0985-29-2279  
<http://www2.ocn.ne.jp/~msen/index.html>

---

宮崎県より「平成24年度災害に備え障がい者・高齢者を支え合うネットワークづくり事業」の委託を受けて作成しました。